

介護現場革新会議 骨子(案)

見出し	具体的な方向性
本会議開催の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2040年に向けて生産年齢人口の減少、高齢化の進展に伴う介護ニーズの増大 ○ このため、介護施設においては、今後、継続的に、 <ul style="list-style-type: none"> ①人手不足にも介護サービスの質を落とすことなく対応する運営モデル ②ICT・ロボットの活用 ③介護業界のイメージ改善と人材の確保 といった課題に介護業界を挙げて取り組む必要がある。 ○ 本会議は、こうした難しい課題を背負っている介護現場が今後も持続可能であり続けるために、普段、介護現場を預かる各団体の叡智を結集し、また、意識共有を図るためのもの。
介護人材対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護人材対策としては、攻め(新規人材確保)と守り(離職防止)の観点があり、車の両輪としてともに実施していく必要。 ○ その際、来年度から実施される働き方改革への対応を進めることも必要。
運営モデル	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護サービスの質を落とすことなく人手不足に対応するためには、 <ul style="list-style-type: none"> ①介護現場における業務の洗い出した上で、 ②業務の明確化と役割分担 を行うことで、業務を整理することが重要。 ○ その際、現場の課題の見える化を行った上で、課題を整理することが必要。(因果関係図など)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産性向上の手段として、 <ul style="list-style-type: none"> ①書類の簡素化 ②タイムスタディの実施 ③職場環境の整理・整頓(5S) を推進することなどが考えられる。

介護助手	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員がケアに特化できる環境整備を行う観点から、地域の元気高齢者を活用して、「介護助手」を導入することも有効。その際、配膳、ベッドメイキング、清掃など、周辺業務を明確に切り分けた上で、付与することが必要。 ○ 業務の役割分担は、その業務の専門性や資格などにより、業務を分類し、介護職員の専門性の向上とその他周辺業務からの解放につながる。 ○ また、①社会貢献への意欲、②介護予防、③介護現場を知る観点から、元気高齢者などが考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループホーム入居者家族や認知症サポーターに「介護助手」的な業務をお手伝いいただくことも考えられる。
介護ロボット・ICT(総論)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の身体的・精神的負担の軽減のために、福祉用具や介護ロボット、ICTを用いることで、介護現場に時間を生じさせ、利用者と介護者のふれあう時間や利用者の安心感を増す効果。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な導入に当たっては、 <ul style="list-style-type: none"> ①業務を可視化し、抱えている課題とロボット・ICTの具体的な機器をマッチング ②可能な限り、実機での検証を実施し、使用や操作方法に慣れる ③利用者に問題がないか 等を検討。 ○ 経営陣や管理者と現場が一体となった導入チームや担当者を決め、活用計画を立て、職員間やメーカー等と相談しながら使用し続け、データ・課題について収集し、再検証し、必要な措置を講じることが重要。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護ロボットについては、 <ul style="list-style-type: none"> ①導入前に試用し、施設で期待する効果を実感・検証すること ②導入後も感想や問題点を意見交換すること が望ましいことから、 <ul style="list-style-type: none"> 例えば、①都道府県などの単位で介護ロボットをレンタルできるような仕組みや ②介護施設関係者を中心に導入・使用した効果や問題点を意見交換できる場があることが望ましい。

介護ロボット・ICT (各論)	○ 見守り支援機器については、夜勤の効率化やケア記録の省力化、入居者の自立支援やリスクマネジメント、看取り期の方への対応にも効果。
	○ 各職員が業務が「見える化」できるようスマホアプリを活用。業務の分類とセットで導入するとさらに効果的。
平成30年度生産 性向上事業	○ 上記のような方法を用いて、介護の質を維持しながら、効率的な業務運営に取り組むことができるよう、今年度、生産性向上ガイドラインを作成していることから、積極的に活用することが望まれる。
<人材確保>	
キャリアアップ	○ 地域によって差もあるが、概ね順調にキャリアアップを図れば他産業と遜色ない賃金水準を確保できる。
小学生などへの働 きかけ	○ 小学生認知症サポーター養成講座 ○ 認知症劇を実施 などの実施により、地域社会の理解の促進や将来の介護人材の確保につなげる。
中学生、高校生な どへの働きかけ	○ 進路指導の際に魅力的に映るような中学生、高校生向けの介護職パンフレットが必要。
自衛隊・警察OB の活用	○①間接的な介護現場の具体的な支援 ②地域と介護施設・現場スタッフとの橋渡し ③職員の安全管理体制の整備や防犯意識等の向上 などの観点から定年退職警察官や退職自衛官を活用することも有効。

- ・ 厚生労働省と関係団体が一体となって上記の内容の普及に取り組む。
- ・ 平成31年度については、都道府県(又は政令市)と関係団体が協力しながら取り組むことが効果的と考えられることから、本会議の取りまとめの内容を踏まえた上で、**全国数力所でパイロット事業を実施し、全国展開につなげる**